



滋賀県内で初、経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)に成功

滋賀医科大学医学部附属病院（大津市瀬田月輪町）では、重症大動脈弁狭窄症の患者さんに対して、滋賀県では初症例となる経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)に成功しました。

POINT

- ・患者さんは草津市在住の87歳、超高齢女性。
- ・重症大動脈弁狭窄症による心不全で、2015年9月草津市内の病院へ入院。各種治療が行われましたが回復困難のため、2016年1月当院へ転院。
- ・循環器内科、心臓血管外科、麻酔科の各科医師、看護師、臨床工学技士、放射線技師、心臓エコー技師らからなる滋賀医科大学ハートチームが協議した結果、大動脈弁置換術が必要と認めましたが、87歳と超高齢で衰弱も激しく、外科的開胸手術による負担が大きいと判断し、TAVIを選択しました。
- ・2016年3月14日、同チーム、浅井心臓血管外科長、堀江循環器内科長、北川麻酔科長の下、山本孝講師（循環器内科）らにより滋賀県初のTAVIを施行し、成功しました。
- ・患者さんは、翌日から歩行・食事とも可能となり、心不全も軽快しました。
- ・当院では、専門分野を横断したハートチームを結成しております。TAVIの成功はチーム医療の勝利と考えており、滋賀県においても、重症大動脈弁狭窄症に対する新たな治療選択肢が提供できることになりました。

★別紙詳細説明あり（2枚目から）★

については、詳しくご説明いたしたく、ご来学いただければ幸いです。

○日時：平成28年4月28日（木）14時00分から

○場所：滋賀医科大学管理棟3階 大会議室

※別添会場案内参照；当日、建物前に駐車場をご用意します。

○説明者

滋賀医科大学医学部附属病院

心臓血管外科 浅井 徹（あさい とおる） 教授

麻酔科 北川 裕利（きたがわ ひろとし） 教授

循環器内科 山本 孝（やまもと たかし） 講師

《プレスリリース発信元》

滋賀医科大学 企画課（担当：叶・奥村）

TEL：077-548-2012 e-mail：hqkouhou@belle.shiga-med.ac.jp

(今回の患者さんの経過について)

患者さんは草津市在住の87歳女性で、2015年9月に呼吸困難にて草津市内の病院へ入院となりました。重症大動脈弁狭窄症による心不全と診断され、薬物治療などが行われましたが、心不全の治療が極めて困難なため、2016年1月21日に滋賀医科大学医学部附属病院へ転院となりました。

重症大動脈弁狭窄症に対する根本的治療としては外科的大動脈弁置換術が必要となりますが、87歳と極めて高齢で、衰弱も激しかったため開胸手術による負担が大きいと判断し、経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)を施行することとなりました。

2016年3月14日、滋賀医科大学ハートチーム、浅井診療科長、堀江診療科長、北川診療科長の下、山本孝講師(循環器内科)らにより滋賀県初のTAVIに成功しました。カテーテルを用いた大動脈弁留置直後より、心不全の改善が認められ、手術終了後約1時間で麻酔より覚醒し、会話も可能となりました。

術後経過は極めて良好で、手術翌日より歩行・食事可能となりました。現在のご家族と当院6Fのレストランでローストビーフを食べに行かれるほど大変元気になるられています。昨年9月に他院に入院されており、以降、入院期間が長いため、現在はリハビリをしばらく行い、退院の予定となっています。

<大動脈弁狭窄症について>

心臓弁膜症のひとつで、心臓から大動脈(全身)へ血液を送り出すのに重要な役割を果たす大動脈弁が硬くなることで開きにくくなり、十分な量の血液が全身に送り出せなくなり、心臓に強い負担がかかる病気です。初期症状は労作に伴う息切れなどがあり、重症になると胸痛や失神、安静時でも息切れがするといった症状が現れ、突然死に至る場合もあります。大動脈弁狭窄症は無症状での経過期間が長いですが、症状があらわれた患者さんの半数は2年以内に命を落とすという統計データがある怖い病気です。日本での患者数は高齢化に伴い、年々増加しています。

薬による内科的な治療では病気の進行を抑えることはできないため、重症になると、これまでは胸を開く外科的な手術(大動脈弁置換術)しか治療法がありませんでした。しかし、高齢で体力の落ちている患者さん、肺などに合併症のある患者さんでは従来の開胸外科手術が不可能、または極めて困難なケースがありました。

<TAVI について>

TAVIは、「重症大動脈弁狭窄症」に対する新しい治療法で、開胸することなく、また心臓も止めることなく、カテーテルで生体弁を患者さんの心臓に留置します。高齢で体力の落ちている患者さん、肺などの合併症のある患者さんでは従来の外科手術が出来ない、または極めて難しいケースがありましたが、TAVIはこのような開胸手術が困難な患者さんへの新しい治療法として、ヨーロッパでは2007年から、アメリカでは2011年から、日本では2013年10月に健康保険の適用となり、臨床の現場で広く役立てられるようになっていきます。

TAVIは、足の付け根などからバルーンカテーテル（折り畳んだ風船と人工弁入りの管）を挿入し、大動脈弁の内側で広げて人工弁（生体弁）を留置します。尚、TAVIは心臓・血管に対するカテーテル治療数・外科手術数・医療機器などの基準をクリアした施設しか施行する事ができない治療で、滋賀県では当院が唯一のTAVI施行施設です。

<滋賀医科大学医学部附属病院ハートチームについて>

当院では専門分野を横断したハートチームを結成しております。TAVIの成功はチーム医療の勝利と考えており、滋賀県において重症大動脈弁狭窄症に対する新たな治療選択肢を提供できることとなりました。高齢化に伴い、低侵襲治療であるTAVIの適応となる患者さんは今後ますます増加すると思われまます。県内唯一の大学病院として使命を果たしていきたいと思っております。

■会場案内（滋賀医科大学）

別添

「滋賀県内で初、経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)に成功」の説明

○日時：平成28年4月28日（木）14：00から

○場所：滋賀医科大学 管理棟3階 大会議室（下記マル12の建物）
※建物前に駐車場をご用意いたします。

○キャンパス内案内

